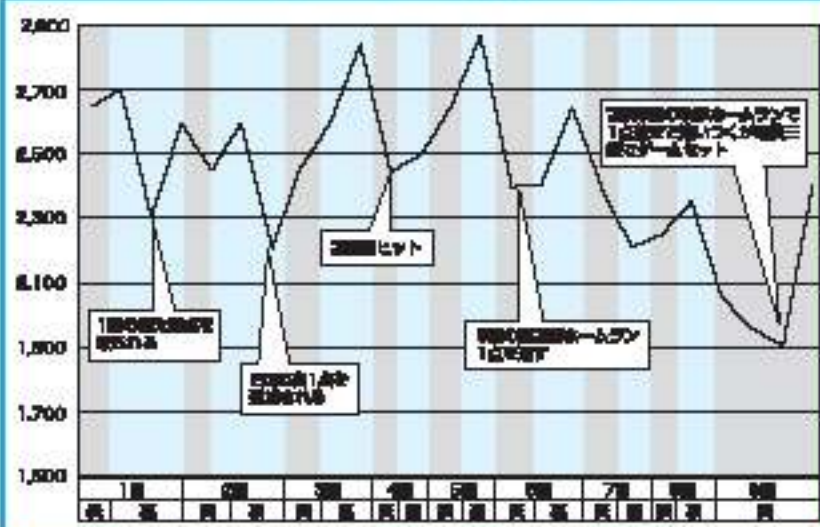


夢と感動をありがとう

8月21日(月) 決勝再試合



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
駒大苫小牧	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3
早稲田実業	1	1	0	0	0	1	1	0	X	4

最終回に最少の配水量

翌日の決勝戦再試合は、試合開始からいきなりピンチが続いたため、早突の攻撃中にも配水量が減少していました。しかし、四回表の駒吉の初ヒット、六回表の一点差に迫りつくホームランの時に、それまで上昇していた配水量が一気に減少しました。終盤には、駒吉の反撃を期待して配水量はほとんど少なくなり、最後の攻撃となった九回の表は、この試合で最少の配水量となりました。最後まで逆転を信じて、たくさんの方がテレビの前から離れられずに応援を送っていたことがわかります。

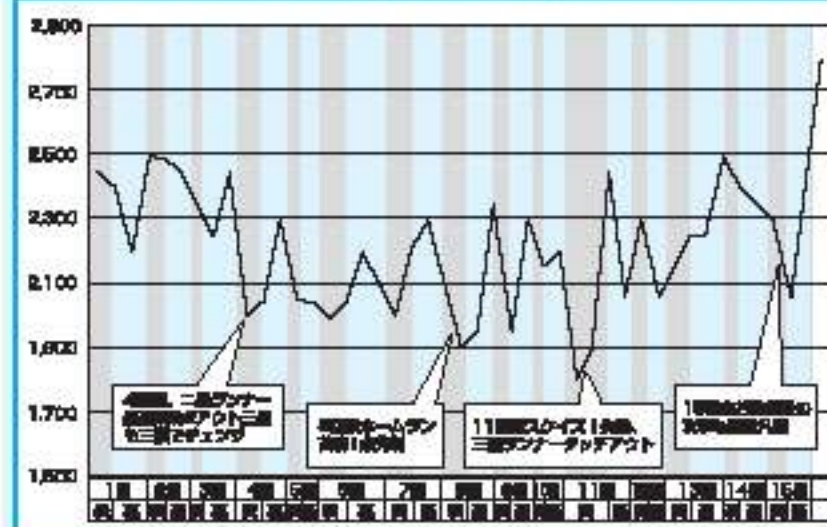


写真提供 苫小牧民報

今年も配水量に異変が

今年も、駒吉の決勝戦が水道水の使用量に大きく影響しました。決勝戦が行われた時間帯の配水量は通常大きな変化はみられませんが、試合の経過とともに、著しく変動しました。翌日の決勝戦再試合の配水量は左右のグラフを比較すると分かるように、前日の日曜日よりも全体として増えています。前日と同様に試合中は大きく変動しました。配水量が少ないということは、水道水があまり使われていないことになり、二試合とも駒吉の攻撃中はテレビの前での応援に力が入り、水をあまり使わなかったのか配水量は減少しています。攻撃後はトイレなどで水を多く使ったのか配水量は増加していました。

8月20日(日) 決勝



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
駒大苫小牧	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
早稲田実業	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

攻撃の後配水量は上昇

初戦は、序盤お互いにチャンスを掴みましたが、配水量に大きな変動はありませんでした。三回の裏、駒吉のピンチにエース田中がマウンドへ登場した場面、四回表のチャンス、八回表の先制ホームランの時に配水量は大幅に減少しました。延長に入り一進一退の展開となりましたが、十一回表の駒吉最大のチャンスにスクイズを失敗した場面、配水量はこの日一番減少しました。市民の皆さんが固唾を飲んでテレビ観戦していた様子がかえります。そして、駒吉最後の攻撃の後、配水量は一気に上昇しました。

声がかたてしまいました



写真提供 苫小牧民報

白熱した試合展開の中、市民のみならずはどのように観戦していたのでしょうか

「家族みんなで応援を送っていましたがチャンスやピンチに思わず大声を出したため声がかたてしまいました。準優勝でしたが私たちに大きな勇気を与えてくれたことは間違いないですね。」
(沼ノ端、事務員)

「私は駒吉自身で決勝・再試合もテレビの前で応援を送っていました。20日の決勝戦は最終回が終わったのが四時半を過ぎていたため夕食の支度を慌ててしました。」
(有珠の沢町、主婦)



写真提供 苫小牧民報

この感動は一生の宝物

惜しくも3連覇は逃しましたが、この軌跡は私たち市民の記憶にしっかりと刻まれました。今年の夏、駒吉の球児が残した新たな伝説を苫小牧市民として観戦できたことに感動しています。この感動は私たちの一生の宝物です。今年も夢と感動をありがとう。